



寺院名物シリーズ⑳ 浄光寺 (江津組)

善太郎さんは、お寺で法座がある時には境内に店を出し、柿や梨などを売っていた。横に銭筒を立て自分は本堂に入って聴聞したという。

こうして得たお金を三つに分けて、ご本山と手次寺である浄光寺に納め、残りを自分の賽銭にしたと云われる。

山陰

編集 御同朋の社会をめざす運動
山陰教区委員会

発行 山陰教区事務所
〒690-0001 松江市大正町四三ノ一
本願寺山陰教堂

TEL 〇八五二 〇八五二 〇八五二
FAX 〇八五二 〇八五二 〇八五二
TEL 〇八五二 〇八五二 〇八五二

寺を消さないために

実践運動山陰教区委員会 副委員長 藤谷 崇文

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)には、「そつとつながる

ホッがつたわる」結ぶ絆から、広がるご縁へ」という総合テーマが掲げられ、山陰教区ではこの総合テーマのもとに、「日常の寺院活動・地域と寺院とのつながりを大切にする」という実践目標を掲げ、各種事業を展開してきたところで

す。初年度の平成二十四年度では、全寺院を対象に、実態調査を実施しました。この調査を踏まえて、各種研修会等が行われました。中でも、今年度はじめて、寺院活動支援部が主体となつて、「ご縁まち交流 in 松江」が開催されました。こうした、従来にない新規事業や、新しい発想での研修会の実施など、一定の成果があつたのではと考えています。

ところで今、わが国は人口減少社会に入り、先頃発表されたところにより、先頃発表されたところ、若年女性が二〇四〇年までに、半数以下に減ってしまう都市は、全国で半数以上に上り、これを消滅

可能性都市と言ひ、衝撃が走りま

した。消滅自治体が八〇%以上の五県に島根県も入っています。今や、過疎、少子化、高齢化が進行し、地域が消滅の危機に瀕しているのです。地域が消えれば、当然、寺も消えていくでしょう。

この問題は、宗門だけの問題ではもちろんありません。国全体の大きな問題ですから、「地方創生」ということが言われています。

しかし、宗門として、東京一極集中の問題や、人口減少問題に、何らかの対策を取らなければならぬでしょう。手をこまねいて見ているわけにいきません。実践運動の重点プロジェクトは、三年サイクルで進められますから、来年度は新しい目標を設定して運動を進めていくこととなります。しっかりと将来を見すえた運動を展開していかなければなりません。

この山陰から、人も御法義も絶やしてはなりません。そして、寺を消してはなりません。

教区寺族婦人会連盟研修旅行に参加して

邑智西組 願入寺坊守 日 高 和 恵

昨年、組の実践運動研修会で、本山より派遣されたご講師より、東北大震災の復興支援について学ぶ機会がありました。その時、「まず、行って見て下さい、それが支援になるのです。」と、いわれました。行つて見たくても何分遠いし、経費がかかる、坊守が何日も家を空けることは不可能だとの思いが強く、断念せざるを得ませんでした。

今回、教区寺族婦人会であきらめていた復興支援研修旅行が計画され、組に持ち帰って旅行の趣旨を伝えると、是非連れて行ってほしいということので五名参加させていただくことができました。

遠い仙台までどうして行けば良いかと、いろんな方の知恵を借りて出発し、無事仙台別院で参加者二十二名と合流でき、お参りさせていただきました。

輪番様より被災直後からの涙ぐましい支援活動状況の説明を受けたり、支援施設の見学もさせていただきました。大変なご苦労だと思います。

この後、バスで現場へ案内されました。一瞬にして津波が押し寄せ、すべてのものを奪っていった被災状況を目で見、耳で聴いた時、身震いし息苦しさを感じました。又、二ヶ

所の供養塔では皆で声高らかに重誓偈のお勤めをさせていただくことができました。

南三陸町、気仙沼で報道されている所も三年半の間かなり整備されている所、かさ上げ工事がなされている所が、あちこちで見られましたが、その中にまだまだ手付かずの所や仮設住宅もあり復興までの道のりは険しいものだと心が痛みました。

現地で語り部をして下さった菅原文子さんは、あの日、義理のご両親とお連れ合いを亡くされ、お連れ合いの遺体は一年三ヶ月後に発見されました。悲しみの中、二人の子どもさんと目標にむかって一生懸命頑張っておられ、ご縁あつて浄土真宗のみ教えと出遇われ、今では中仏で学んでおられると

お聞きし心から嬉しく思いました。旅行から帰った直後が震災三年半ということ、私達が視察した所が何度も報道され心からうなづくことができずして。



りがたく思います。

最近大きな災害が頻回にあつちこつちで発生しております。いつ何が起るかわかりません。

「置かれている場所はどこでも良い。そこでどう生きるか。」の言葉を大切に、お念仏の心をいただきながら、支援の必要な方の気持に寄り添い共感していく気持を常に持つていきたいと思えます。

合掌

連研の取り組みについて

江津組組長・円勝寺住職 山本真文

連研ノートEが発行されました。ノートEは、Dを受け継ぐと共に、これまでの問題を踏まえて、さらに新しい問題を取り入れ、より細かく丁寧な敷居を下げて、一般人の目線に立つてバリアフリー化して入り易いアプローチとなっています。

まず、すべての人が願う「幸せ」について取り上げ、考えさせることから始めています。続いて「葬儀・法事・仏壇」「老病・死」「他人との関係」「浄土・神・神社・念仏・占い・運勢・カルト」「事故・災害・自死」「差別・いじめ・虐待・暴力」「脳死・臓器移植」「原発・環境・社会」「戦争・平和・靖国」「つながり・きずな」等々実に多岐に渡る問題を取り上げ、話し合のテーマとして提起しています。

江津組では十二期連研が九月で終了しましたが、まだノートDで実施しました。教区内でもノートEを使用して連研を実施している組は少数ですが、次回か

らはノートEを使って実施する予定です。

ところで連研は全国的にかなり普及して来ましたが、中央教区に参加する人も多くなり、門徒推進員も登録者一万人になろうとしています。特に山陰教区は、北海道教区に次ぐ六百名の登録者を輩出しています。このこと自体はたいへんなことであり、素晴らしいことではあります。しかし、本当に浄土真宗の発展を願い、社会のあらゆる分野における真宗門徒の活発な活動を推進し、南无阿彌陀佛が大きなうねりとなって真に心豊かに生きることのできる社会を実現するためには、これまでの百倍以上の努力が求められていると言えます。

そのためには、御門徒のすべての方は連研を受講するべきであり、「連研受講は真宗門徒の義務」として提唱されるべきであります。

南无

山陰教区僧侶研修会

実践運動山陰教区委員会 伝道広報部長 松林 茂

九月二日～三日松江テルサに於いて僧侶研修会が開催されました。僧侶研修会の講師に相愛大学教授・釈徹宗先生（大阪教区豊島北組如来寺住職）、勤式講習に教区勤式指導員・山崎崇峰先生。二日間計一七四名の僧侶方が研鑽されました。

釈先生の講話は二つのテーマを二日に分け

『宗教と芸能―落語の中の浄土真宗』

一日目は一九八十年代から現代までの宗教と世俗との関わりから始まり、宗教がもつ「行索性」と「身体性」を示され、真宗に於けるこの二つの要素が布教伝道に関係してきたことを述べられ、法要は表白、声明、読経、説経で構成されてきて専門職として都講、学僧、説教僧を生じ、平安以来、安居院流、三井寺流等の説教法が「語り芸能」として確立していき、法要後の延年（小劇）などによって宗教行事から能、落語等の芸能が生まれ、真宗と落語の関係について、ご自身が仏教題材とした古典落語の復活をされた事などを述べられました。

『老病死の事例に学ぶ仏教』
寺に隣接する古民家で認知症高齢

者のグループホームをNPOで運営している事例をもとに、①複眼的視点をもつこと、②いろいろなコミュニティにかかわることをポイントとして話されました。特に在宅でむかえる臨終を『自然死』として尊厳死について貴重な体験とともに話されました。

二日目の午後は勤式講習の講義。『葬儀勤行の念仏・和讃・回向句を中心として』をテーマの習礼が山崎指導員によってありました。なお、二十七年度も八月頃に僧侶研修会を開催する予定です。



第34回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

期 日 二〇一四（平成二十六）年 九月十八日（木）

会 場 国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑
参加者 山陰教区からの参拝者四名

第二十五代専如ご門主御就任後初めての法要でした。また、中尾了信教務所長が散華頭での出勤でした。

宗門においては、一九八一（昭和五十六）年から、毎年九月十八日に東京都千代田区にある国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑において「全戦没者追悼法要」をお勤めしてまいりました。「全戦没者」という言葉には、人類が繰り返してきた戦争によって、尊いいのちを失われた世界中の全ての戦争犠牲者への思いが込められています。

国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑は、一九五九（昭和三十四）年に建てられた国立の墓苑で、主に「アジア・太平洋戦争」で亡くなられた軍人から民間人にいたるまでの、ご遺族のもとに帰ることのできなかつた約三十五万の方々のご遺骨が納められています。

それらの経緯からしても、この墓苑は、国籍・思想・信条などを超えて、全ての戦没者を追悼するのに相応しい厳粛にして大切な場所であると言えます。

二〇〇四（平成十六）年に総局は

『世の中安穩なれ』『仏法ひろまれ』との宗祖のご遺訓を体し、過去の歴史への反省に立って、戦争のない平和な世界を築いていくため、世界中の人々との交流と対話をとおして、非戦・平和への取り組みをさらに進めていく所存であります」と決意を表明しました。

教区内におきましては、平和の鐘を撞いてほしいという願いに對しまして、趣旨がよく分からないなどのご意見も頂戴いたしますが、まず形から入ることで、二度と悲惨な戦争をおこしてはならないという意識を広めることができればとも感じました。

また、法要は参加者が減少傾向にあります。また、中学・高校生のすばらしい作文と厳粛な仏教讃歌・献華・平和の鐘など、とても感動的な法要です。まだ参拝されていない方は一度ご参拝頂ければと感じました。

来年度は実践運動の一環として、教区団体参拝計画の声も上がっています。



「縁まち交流in松江」

八月三十日(土) 松江イングリッシュガーデンにて、教区実践運動寺院活動支援部主催の婚活イベント「縁まち交流in松江」を開催いたしました。

参加人数は男女合わせて二十名。当日は松江水郷祭の花火大会と日程が重なり、若干スケジュールを変更いたしました。午後四時半からの開会式の後、多目的ホールのステージ上で参加者のみなさんの自己紹介として交流会。「スペシャル缶」のバンド演奏のアトラクションの後、多目的ホール横の廊下では軽食コーナーもオープンして、参加者の皆さんにはゆつたりと交流。和やかな雰囲気の中で午後七時半に閉会いたしました。



勸学寮山陰教区 教義研鑽講座

期日 二〇一四(平成二十六)年 八月十九日(火)

会場 本願寺山陰教堂教化センター 研修室

参加者 四十名

内容 「浄土真宗における往生浄土の意義」 徳永一道 勸学

仏壮ブロック研修会

二〇一四(平成二十六)年九月二十八日(日)に鳥取伯耆組勝福寺、講師は山陰教区教務所長 中尾了信師、「私の実践運動」をテーマに「山陰教区仏壮年会連盟鳥取ブロック研修会」が開催されました。参加人数は四十六人でした。

十月十八日(土)に本願寺山陰教堂教化センター、講師は山陰教区教務所長 中尾了信師、「仏壮会員として実践運動にどう取り組むか」をテーマに「山陰教区仏壮年会連盟出雲ブロック研修会」が開催されました。参加人数は四十五名でした。

「御同朋の社会を目指す運動」の基本計画のねらいや、教務所長の自坊のある滋賀教区を例に挙げ、現代社会のお寺の現状やありかたなどの

勸学寮では、平成十四年度より「勸学寮真宗講座」が僧侶の教義研鑽を促し、学階取得を奨励することを目的に開講されております。しかしながら平素法務等多用な僧侶のために短期日程で「勸学寮教義研鑽講座」も開催されています。平成二十六年度には山陰教区において「勸学寮教義研鑽講座」を開催いただきました。勸学寮頭徳永一道和上、また、安藤光慈和上にも尊いご教導を賜りました。

話がありました。

その後、分散会が行われ各々の単位の抱えている問題や、地域特有の活動、仏壮の今後のありかたについての意見交換が行われ、最後に講師まとめのお話が行われました。参加者全員が、仏壮会員としての意識を高め、これからの取り組みの方向性などをかえることができるのではないかと思えます。



伝統ある京佛具を後世に伝えたい

浄土真宗本願寺派仏具専門店
寺院用 在家用 仏壇 仏具 記念品

株式会社 **古田た佛具製作所**

〒600-8227 京都市下京区七条堀川上ル菱屋町(西本願寺前)
TEL(075)343-2341 FAX(075)343-0836
フリーダイヤル 0120-178-413
フリーファックス 0120-343-036

JTB 感動のそばに、いつも。

株式会社 **JTB中国四国 松江支店**

〒690-0003
松江市朝日町498-6 松江駅前第一生命ビル2階
TEL 0852-23-6720
FAX 0852-23-7739
営業時間：9:30～17:30 (土・日・祝日休業)

第四連区

「門徒推進員実践運動研修会」に参加して

神門組 願立寺 桑本 本 巖

平成二十六年十月四日、五日の両日、備後教区の担当で、福山市で開催され、山陰教区からは十八名が参加いたしました。

一日目は、定例的な諸行事の後、岐阜教区神道寺住職 朝戸臣統先生から、「御同朋の社会をめざす運動」についての問題提起があり八班に分れて話し合い法座がありました。

二日目は、晨朝勤行の後、再び法座がありました。私のメモ帳の一部を紹介いたします。

- ・寝た子を起こすな↓寝た子は必ず起きる
- ・苦勞はきちんと受止め、その先を見つめる
- ・未来への課題↓我々は問題点を先送りするの

- ・門推は資格でなく自覚である
- ・がんばれ↓がんばったね
- ・ランプの中のススを取り除くことが必要
- ・教えのあたたかさ、ありがたさ、とうとき、あなたの自覚

地域、住民のための実践活動↓理解不足では苦情が出る
私にとってあなたは大切な人です↓命によりそう
懇親会は、有志との二次会もあり、大変有意義でした。本年は、高知県開催予定。ご縁があれば

合掌

総局巡回

二〇一四(平成二十六)年十月七日(火)午後二時〜午後四時十分

場所・本願寺山陰教堂 本堂

特命布教・本願寺派布教使 岡田哲

水師(佐波組西念寺)

出席者・四十八名

第一部「御消息披露式典」

概要・御消息披露と伝達があり、総務より趣旨演達がありました。記念布教では、専如ご門主の御消息を頂戴し、寺院にご縁のある方々への伝道はもちろんのこと、寺院にご縁のない方々に対して、いかにしたらきかけていくのかを考える必要がある

ことを熱くお話いただきました。今までご縁のない方々を侮ってはいけないこと、翻って自らは、自信教人信の教えを肝に銘じて行くべきとお話をいただきました。

第二部「公聴会」

宗派出向者・藤野堯文総務

高橋篤法副総務

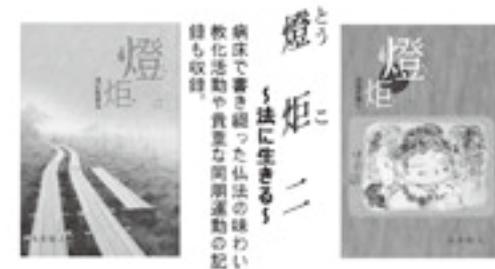
正田時子寺院活動支援部(組織教化担当)部長

岡田義宣所務部(財務担当)賛事

教区・中尾了信教務所長
座長・小笠原寧之教区会議長
内容・以下のような意見、提言がありました。

・当教区が抱える大きな問題の一つに過疎化がある。継続的恒久的な環境整備として宗派が最先機関を設置して頂けないか検討頂きたい。
・冊子「ご縁」は非常に分かり易く完成度の高いものだった。自他共に心豊かに生きるという事について、言葉としては分かりやすいが具体的にどのような生き方かイメージが困難なので、「そとつながらる ホッがつたわる」(結ぶ絆から、広がるご縁へ)のテーマと「自他共に心豊かに生きる」を関連付けた分かりやすい資料・冊子の作成を希望する。

個人出版(自費出版)のおすすめ。
~お気軽にご相談ください~



出雲・松江の書店で販売中! 成福寺 本多昭人 著 各1,000円(税込)

ハーベスト出版 〒690-0133松江市東長江町902-59
Tel0852-36-9059 Fax0852-36-5889
株式会社 谷口印刷 松江市東長江町902-59Te0852-36-5888

手をあわせ 心あわせて しあわせに

報恩

感謝



ぶつだんの

内田裏造商店

・木次・ 出雲・
☎0854-42-0266 ☎0854-42-3711 ☎0853-21-3253

実践運動婦人研修会に参加して

大田西組 瑞泉寺仏婦 中西悦子

去る十月八日、出雲市民会館において、平成二十六年年度 山陰教区実践運動婦人研修会が、開催されました。

此度の研修会には、教区内より寺族・仏婦会員・若婦人会員、総勢百十七名の出席があり、実践運動中央委員・澤田隆之先生（邑智東組、西林坊前住職）の御講義を拝聴しました。

東日本大震災から早や四年、八月には広島市の土砂災害、九月には長野県御嶽山の噴火等近年日本では想定外の災害が勃発しています。いつ何どきわが身に降りかかるも知れない現実を真摯に受け止め、浄土真宗の門徒として、何から行動し、何が出来るかと、模索しながら、念仏者としての使命を確認する事が大切であると示唆されました。

そして、「寺院と地域の繋がり（ご縁）を大切にして、差別的無い社会を目指し、人々が対話しながら顔を合わせる場所の提供が必要となりました。あらゆる人々に阿弥陀如来さまの知恵と慈悲のこころを伝え、自他共に、心豊かに生きることが出来る社会の実現に、貢献することが重要であります。」と結ばれました。分科会では、各地域・各寺院の事例報告がありました。寺院の各種行事



（報恩講・華道教室・キッズサンガ等）の持ち方、仏婦の研修、奉仕活動や家庭報恩講の持ち方、とくに、若い方々への参加奨励の工夫。又、高齢化対策について活発な意見交換の場となりました。寺院と門信徒の絆を深め、開かれた教化活動を、展開するには、相互の協調性が問われていると感じました。

私自身・日常生活を心静かに顧みて、今後の仏婦活動の中で（お聴聞）させて頂く喜びと共に、課題も再認識させて頂く有意義な研修会であったと感謝しております。

第二十一回全国仏教壮年福岡大会

平成二十六年十月二十五日、福岡国際会議場にて、第二十一回全国仏教壮年福岡大会が行われました。山陰教区からは仏社会員二十三名の参加がありました。

この大会は、混迷化した現代社会の中、仏社会員一人ひとり何ができるのか、仏社会員として阿弥陀如来の本願名号を聞信して念仏申す同信の朋として朋友の輪を助け、一人ひとりが抱える課題を大切にし、お念仏を喜び心豊かに生きることのできる社会をめざし、共に考え行動することを趣旨とし、「〜朋友の輪を助け、ともにいのちかがやく世界を〜」をテーマに行われました。

開会式の後、代表教区より仏教壮年会活動の取り組み事例発表が行われ、仏社会の活動、活動を行う上での工夫などの発表がありました。

その後、記念行事として筑紫女学園高等学校宗教部／雅楽会「和雅音」による管絃「五常樂急」、雅楽会和雅音による舞楽「春庭花」を鑑賞いたしました。

最後に記念法話が、ご講師、本願寺派布教使熊本教区山鹿組常法寺住



職佐々木高彰師により「大悲招喚」三河のおその同行」を講題に行われました。

参加者それぞれが御同朋、御同行の集まりであるという自覚、また仏社会員として現代社会における問題への寄り添い方や今後の課題を見つけれられたのではないかと思います。

あたたかい心遣いに触れた研修 中四国仏婦大会 (若婦人研修) に参加し

邑智東組 西林坊 大 和 磨 美

十一月八日、九日にかけて山口市で開催された若婦人研修中四国大会に、今回ご縁をいただいて参加させていただきました。

数年前より近所の西林坊さんのキッズサンガを、いつもお手伝いさせていただいています。若婦としての行事参加は初めてで、何をするのかわからないままの参加となりましたが、山口別院玄関のきれいな菊の鉢と山口教区の親婦の皆さんのやさしい笑顔に迎えられ、同年代の女性ばかりということもあり、緊張も和らぎました。

一日目、浄土真宗クイズでは、楽しく浄土真宗の基本について確認し学びました。医師である宮崎幸枝先生の講演では、ご自身がお勤めの病院での実例を多数あげて、お念仏のお話をされました。私も長年神経性障がいの方の生活施設に務めておりましたので、共感する部分がたくさんありました。

私の心に一番残ったことは、人が自分の死に直面した時に『南無阿彌陀仏』と声を出して、お念仏を唱える。ということですが、どれだけ死や病気に対する恐れをなくし、人の気持ち

ちを安らかにするのかということでした。『南無阿彌陀仏』という言葉は、お浄土に導いてくださる阿彌陀さまと私たちを繋ぐ言葉なんだなあ」と感じました。夜は山口の美味しい名物料理と湯田温泉のお風呂を堪能し、同室の方々とは初めて出会ったのに意気投合し、私的な悩みなども語り合い、良いご縁をみんな喜び合いました。

二日目は雅楽の演奏を始めてしっかり聴かせていただきました。笙の和音が柔らかくなった気がしま



した。演奏されている皆さんはプロの方々と思いきや、普段は僧侶としてお勤めされているとのこと。そんな活動もされていることを初めて知り、ビックリいたしました。

二日間通して、親婦の皆さんの心遣いが随所にあふれていて、研修中とても心地よく過ごさせていただきました。そんなあたたかい心を私たちが受け継いで、子どもたちに伝えていかなければ……と感じました。

『青年布教使研修会』 第一回「安心論題勉強会」に参加して

鹿足組 妙壽寺 村上 二元

今年度より二年間、青年布教使代表という大役を仰せ付かりました。そこで、年間行事の企画を考えるにあたり、日頃から「出来る」と「良いな」と思っていた企画がありました。それが、この度の「安心論題」の勉強会でした。しかも、教区内の先生を御講師に招いてということも条件の一つでした。

なくてはなりません。しかし、現実には、お聖教を聞くことが億劫になり、参考書や聞き覚えに頼り、正しく教義を学ぼうとしていません。

「安心論題」というと、難しい専門用語を並べて論議を重ねていく、一見学者の方々の学習のように思われがちですが、私たち真宗僧侶が間違えやすい問題を取り上げ、なぜ、宗祖はこのように仰せになられたのかということ、一語一語丁寧に解釈するという学びです。

この度、八月二十八日に教化センターで開催されました「青年布教使勉強会」での「安心論題」勉強会は、普段怠っているお聖教を聞くという作業が出来ました。松林茂先生の丁寧なご教導に学びを深め、専門的な知識武装をするためではなく、自信を持つて自分の言葉でお取り次ぎするため、二年間六回の勉強会を勤めて参りたいと思

私自身、布教をする上で、いつも自らの領解に不安を覚えることがあります。ですから、自らの領解をお聖教に問うて行くことは常のこと

ます。



「えっ！まさかの三人ですか！？」
組での児童念仏奉仕団(以下、「児念」と略)の第一次募集締切での参加予定の子どもの数に、さすがに愕然となりました。
組画編成により大田東組となつてから、初めての組主催での児念。年度当初より、担当部門で計画を立てていただき、組内寺院に依頼して募集を行っていましたが、実施まで一ヶ月を切る中、催行するには程遠い人数。担当部門の方による必死の再募集で、計十二名の児童と四名の引率で(それでも少人数なのですが)、何とか児念の形が整いました。

本願寺では参拝・清掃奉仕・ウォークラリー・レクレーションなど、汗をかきかき子どもたちとともにお念仏の教えに親しむことができました。また、本山スタッフの方がしっかりと盛りあげてくださったことで、男女それぞれに新しい友だちを作っていました。

さらには、「本堂に出入りするときは一礼しよう」という作法が二日間身についている男の子は、帰りのバス休憩でトイレに入るとき「思わず一礼してしまつた！」と言つて笑わせてくれました。「正座がつかつた。」と感想を寄せてくれた子も、「来年も行きたいです。」と、次回の実施を楽しみにしてくれているようです。



これらの声に応えるためには：(可能かどうかは別問題ですが) ・組のバックアップ体制(特に財政面)が重要。 ・あまり欲張らず、一泊二日での実施も視野に入れて、工夫した計画が必要。 ・参加者募集の問題 ・日頃から子どもや次世代を取り込んだ寺院活動が出来ているか? という姿勢と本気度が問われている。 ・若手の育成 ・「児念引率などを通じ、若手に組での活躍の場を与えるきっかけを作る。」など、今回の課題と反省を整理して、前向きに、継続的に取り組む必要があると考えます。

いずれにしても、パワー溢れる子どもたちに力をもらえたとともに、静かに手のひらを合わせる姿に学ばされた児念での三日間でした。これを未来に繋げることが出来るかどうかは、今後の私たちお寺に関わる者の取り組み次第です!

【メモ】今回の児念の行程概略

(八月五日〜七日：二泊三日)

- 一日目午後〜二日目昼
.. 本願寺にて児念行事
- 二日目午後〜(組独自の行程)
.. 梅小路蒸気機関車館見学、伝統工芸の京団扇の給付け〜大阪泊
- 三日目：USJにて自由行動
.. 大田着

2014 (平成 26) 年度山陰教区仏婦連盟緊急ダーナ現況報告
それぞれの災害に対して各教区へ見舞金を送付いたしました。

安芸教区豪雨災害	100,000円
四州教区	50,000円
兵庫教区	30,000円
京都教区	30,000円
長野教区地震災害	50,000円
合計	260,000円

本願寺山陰教区 会館落慶法要

十月二十一日、会館落慶法要をお勤めしました。
ご講師は、平山智正師(備後教区深津組光円寺)。ご参拜の皆さまと一緒に聴聞させていただきました。
午前の法要は午前十時から。午後の法要は午後一時三十分から。松江組内を中心とした御法中、並びに山陰教区雅楽声明の会「雅龍会」の皆様にご出仕戴き、お勤めをさせていただきました。(午前：無量寿経作法、午後：正信念仏偈作法)
多くのご参拝をいただきました。ありがとうございました。
※この法要は、一九七六(昭和五十一)年に本願寺山陰教区(当時の名称は「本願寺山陰会館」)が建立されたことを記念し、毎年十月に開座。

お仏壇・仏具は やっぱり京都・・・

夕に感謝 朝に礼拝

伝統工芸 京仏壇・京仏具

若林

www.wakabayashi.co.jp

京都本社 / 京都市下京区七条通新町東入
☎(075)371-3131 代年 年中無休 千600-8218
フリーダイヤル ☎0120-37-8585 (各店共通)

東京店・築地店・札幌店・仙台店
近江草津店・福岡(営)・新潟(営)

E-mail info@wakabayashi.co.jp

SINCE 1830

Support 750



実践運動を通して

ドレミファ組

編集後記

今年、仏前結婚式に何度か出席するご縁がありました。お寺の友人以外の結婚式には出掛けたことがあるのですが、実は仏前結婚式は初めてでした。「流れやお勤めはこうする」と学んでいたのですが、実際はとても厳かで、緊張感があつて本当にすばらしいものだと感じました。

今年度、教化センターで仏前結婚式が二件執り行われました。お寺でもそうですが、自分達で作る結婚式なので、うれしいこともあれば時間に追われて苦労することもありますが、その分新郎新婦やご両家の皆様にとって心に残ることと思います。寺族のみならず一般の皆様にもお寺での仏前結婚式の良さを伝えたいと思いました。

これからもさまざまな活動や行事などお聞かせいただいで、充実した教区報お届けしたいです。

(K)

教区報第一三〇号発行が遅くなり、ご関係の皆さまに多大なるご迷惑をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げます。

協賛
瀬尾浩義商店

〒七三三一〇八五一
広島市西区田方三丁目
九〇九一―一三〇一
TEL〇八二―二七二―八四六一

観光庁長官登録旅行業第1926号

株式会社 近畿日本ツーリスト中国四国 山陰支店

〒690-0887 松江市殿町517 アルファステイツ殿町1F

TEL:0852-22-4893
FAX:0852-27-8359

総合旅行業務取扱管理者 青山光弘